

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社理念である「コミュニケーション」と「生活リハビリ」に基づき共有と実践に努めています。	「理念としてのコミュニケーション」は、老人に対する根本的なかわり方であり、自律へのきっかけを得てもらうための働きかけ、「生活リハビリ」は自律へのきっかけとなる機会をつくと位置付け、職員で共有しています。利用者が“笑顔で生活できる”を具体的な目標に掲げ支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ禍のためつながりができていない状況です。	5月にバーベキュー大会を開催した時に地域の方を招待したり、10月の防災訓練に区長さんが参加くださいました。しかし、感染症防止のため、取り組めない状況があります。今後は地区の行事、道づくりや掃除への参加等検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域展開までには至っていない状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	家族代表、民生委員、包括支援センター職員さんに出席していただき、利用者様の状況、健康状況、苦情、事故状況、収支状況を報告しております。また要望および助言をしていただき、業務にいかせていただいております。	感染予防のために開催できない時は、文書で状況等を報告し、文書の確認と意見ももらっています。事故を未然に防ぐためにも、ヒヤリハットの事例を積極的に報告するようアドバイスをもらい、職員間で話し合っており取り組んでいます。また、家族からの不安や希望等の意見も活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	2ヶ月に一度の運営推進会議に地域包括支援センターの職員さんに出席していただいております。	業務で不明なこと等があった場合は、市に相談しています。地域包括支援センター職員へは、運営推進会議等で事業所の取り組みや状況を報告しており、協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修実施計画にて、身体拘束ゼロの手引きをもとに社内研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	たまゆらとしての「身体拘束廃止に関する指針」が整備されています。3月6月9日には社内研修で、身体拘束ゼロや具体的な事例について学んで身体拘束をしないケアを実践しています。委員会があり、必要に応じて開催することになっています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者および職員は、虐待が行われないよう注意を払い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現状ではできておりません。今後研修等参加し理解して活用できるよう取り組んでいきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者、家族に契約書や重要事項説明書を読み合わせ、理解・納得をしていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族代表、利用者様に参加していただき意見・要望をいただいております。	運営推進会議には、利用者や家族の代表が参加しており、要望等を聞く機会になっています。家族から利用者の様子を見て、もっと運動してほしいとの要望が出て、職員で検討してできるだけ散歩に行くように工夫するなど支援内容に反映しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、全体会議を行い開設者が参加し意見等出し合い、話し合う場を設けています	開設者が出席する月に1回の全体会議の中で、業務内容や利用者の状況を話し合い、職員それぞれが意見を述べています。休憩時間の変更、入浴や買い物の方法など具体的な内容を出し合って業務の改善等を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	開設者が定期的に現場の状況を確認し、また職員の意見の聞き取りを行い職場の環境・条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修や実践者研修などの研修を勤務しながら受ける機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新規に開設された施設に見学に行き、同業者の方との交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前にご本人と面談し困っていることや要望をお聞きし安心していただける様に信頼関係構築に努めさせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族と面談し困っていることや要望をお聞きし安心していただける様に信頼関係構築に努めさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い、状況を確認し何が必要か検討しながら取り組んでいます。場合によっては社内の他施設のサービスの利用も視野に入れていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人一人役割をもてるよう家庭的雰囲気を中心掛けコミュニケーションを図り良い関係が作れるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍という状況の中ではありますが、ご家族様には協力いただき電話でお話をされたり、少しの時間の外出など家族との時間を大切に、共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在コロナの影響があり面会に制限がありますが馴染みの方の面会希望もありますのでコロナが落ち着き次第対応していきたいと思っております。	感染状況が落ち着く中で、面会も少しずつ条件付きでできています。家族がなじみの床屋やお店に連れて行かれることもあります。県外や家族以外の訪問希望もあるので、感染状況をみながら支援していく予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆様仲が良く固定で仲が良いということがなく9人でお話をされたり皆が協力し支えあっております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了したからといっても関係性が終わることはないので、相談や支援の要請があれば対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望を聞き対応しています。本人の立場になって行動、表情からも希望、意向の把握に努めています。	今までの生活状況は家族等に事前に聞いて把握しています。日頃から本人と話をし希望を聞き、会話等記録に残し活用しています。また、職員は、日常の様子を観察し、一人ひとりの持っている力や思い等を理解するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に面談を行い生活歴や生活環境、入所に至る経過の把握に努め検討しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士の申し送りやケース等で情報の共有を行い対応しております。必要に応じて看護師に相談し指示を仰いでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の要望、意向をうかがったり日々の関わりの中で、課題を見つけ会議等で話し合いケアプランを作成しております。	日々のケース記録は短期目標に沿った内容で書くように心がけています。本人や家族等にも意見を聞きながら、ケア会議を開いて目標に対してのまとめ、問題点、課題を話し合っ介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活で少しの変化に気づけるよう記録し見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現有サービスの中での対応になっており、施設の多機能化はできていません。ニーズにはできる限り対応できるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	外部交流など地域との関わりが難しい状況です。運営推進会議の場で民生委員と話をしたり、行事など区長様に参加していただき情報交換をさせていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前にご家族様にかかりつけ医の確認を行っており、かかりつけ医の受診・往診を受けています。急変時、異常時には連絡を取り合い対応しております。	6名の利用者が月に1から2回の往診を受けており、他の利用者は通院して受診しています。ほとんどの方が入居前のかかりつけ医を利用しており、家族等と連絡を取りながら適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急時や異常時、また日常での変化がある際は相談、報告を行って、指示を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当者と連絡を取り合い情報交換を行い、退院後の生活等についても情報をもらい対応していきたいと思っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族には緊急時やその後の対応について相談をさせていただいております。地域との関係者と共にチームでの支援には取り組んでいません。	入居時に、事業所として重度化した場合はできる限り他施設等への住替えをお願いし終末期の看取りは行わないことを説明しています。緊急時の対応については本人や家族等の希望を聞きながら、相談して進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修にて緊急時マニュアルに沿って対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災対策マニュアルを作成中であり防災訓練を年2回実施しております。社内他施設との連携体制はできておりますが地域との協力体制は現在構築中です。	6月は敷地内の事業所との合同で地震を想定して訓練を行い、連携体制が確認できています。10月には夜間想定で通報・避難・消火の訓練を地区区長や消防団の参加で実施しました。防災対策マニュアルはまだ作成途中でした。	たまゆらとして、将来的には施設を地域の避難場所として整備していく構想があり期待が持てます。当面は、防災対策マニュアルの作成、地域との協力体制の構築を進めていくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけに注意して対応しております。	日々の生活の中で、利用者一人ひとりが安心して暮らせるように言葉遣いや態度に配慮して支援するように心がけています。皆の前でトイレに誘わない等気を付けています。2月には、人格の尊重やプライバシーについて研修を予定しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話から本人の思いや希望をくみ取れるように努めています。職員主導にならないよう気をつけ、本人が自己決定しやすいように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の体調やペースに合わせて過ごしていただけるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿って衣類を選んでいただいたり整容ができる環境を整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑でできた野菜を利用者様と採りにいきその野菜を食事に取り入れています。要望等を聞き誕生日や行事に提供したり食事の準備や片付けを個々の力に合わせて、一緒に行っております。	野菜の皮をむく・切る・準備・片付け・洗い物等職員と一緒にやっています。畑で作った野菜を採りに行ってはそれを利用しています。五平餅作りの時は胡桃拾い・むく・する・ご飯をつぶして串につけるなどそれぞれ楽しんでました。行事食や季節の料理、誕生日食など利用者に聞きながら取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録し日々確認しております。栄養バランスを考えた献立になっており、栄養士にアドバイスをいただきながら行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っており、義歯の方は毎日洗剤剤を使用し汚れ防止をしております。必要時社内の歯科衛生士に見てもらい対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄状況を記録し変化があった際は、確認したり職員同士で情報交換を行い支援を検討しており、必要な方には声掛け・誘導を行っております。	ほとんどの利用者が自立してトイレに行っており、必要に応じて声かけや誘導を行っています。夜間だけポータブルトイレを利用している方、リハビリパンツを使用している方等、排泄の記録から状況を把握して支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多めにとっていたり、また食物繊維が多い食材を多く摂ってもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日は固定されておりますが本人の気分や体調により入れ替えし、その方の希望に沿えるように支援を行っております。	週2回は入浴できるように設定しており、利用者の体調等で臨機応変に対応しています。花梨湯、ゆず湯など季節を感じながら入浴を楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望に沿って対応しております。体調に合わせて自分のペースで過ごしていただけるように日中、夜間対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの内服薬の情報はいつでも確認できるようになっており、薬の変更時は申し送り職員は把握するよう努めています。症状に変化が出た際は主治医や看護師に報告し指示をもらい対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人の生活を把握し調理や掃除、作品作りなど一人ひとりができることを発揮できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響で制限がありますが家族と外出したりドライブ等で馴染みの場所に行けるよう支援に努めています。	感染症予防に配慮して、希望を聞きながら春は花見のドライブ、11月も紅葉狩りのドライブを予定しています。日常的には、敷地内の他施設まで散歩をしたり、畑に行ったりしています。家族等と一緒に外出することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方が家族が管理しています。必要時家族に対応していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時に電話をしていただいたりレクリエーションにて手紙を書いていたいただき写真を添えて交流ができるよう支援に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節がわかりやすいよう飾りつけをしたり時間や日にちがわかりやすいように工夫しております。共用空間に不快や混乱をまねく場合は取り除くよう努めています。	各部屋にはエアコンが設置されており、施設内は床暖仕様で快適に暮らせるようになっています。季節に合わせて雛人形・五月人形・花などを飾り、大きな日めくりカレンダーもあり、トイレや風呂など分かりやすい表示をするなど混乱を起こさないように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う利用者様との席を近くにしたり、独りになりたい際は本人の希望にあわせて居室で生活できるよう対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の自宅で今まで使用していた寝具等、馴染みの物を使っていただいております。	使い慣れた鏡台、箆筒、ソファ、ベッドなどを配置し、本人が安心して居心地よく過ごせるように支援しています。また、ベッドになじめない方は布団で休んでもらうなど本人や家族と相談しながら一人ひとりにあった居室の配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室は名札や居室名を花の名前にしており分かりやすい工夫にしてあり、また建物はバリアフリーになっており生活しやすい環境になっております。		